

30年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 7月1日～ 28年7月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は4社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
入荷動向	国産材	0.0	12.5	12.5
	外材	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
在庫動向	国産材	△ 16.7	16.7	16.7
	外材	16.7	0.0	△ 16.7

・国産材ラミナの入荷動向は7月、8月の横ばいから9月は増加に。外材は7月の横ばいから8月、9月は減少に。

・在庫動向は7月の増加から8月、9月は増加に。外材は7月、8月の横ばいから9月は減少に。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
国産材	0.0	0.0	12.5
欧州材	16.7	16.7	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの入荷動向は強含み。欧州材は横ばい推移。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・当社においては桧という事になる。6月、7月と入荷を少し抑えて来たが、7月国内市況良くなりつつあり、当社の生産も徐々に上がってきた為、8月は買い付けを若干増やす予定。9月以降はまだ様子見状態。・当社においては米ヒバという事になる。当社の生産が上がらなかった為、入荷を抑えて来たが、8月からは通常の月間1,200m3程度の入荷に戻す見込み。9月以降はまだ様子見状態。・当社においては「桧」になる。当社の集成材生産が上がって来たので、直近は多少減少傾向にある。8月は外部購入ラミナをその分少し増やして、生産に支障が出ないように在庫のバランスを調整する。・当社の場合は「米ヒバ」。一時の現地での素材集材難は完全に払しょくされた。6月、7月は市況悪く、また当社生産も上がらなかった為、ラミナ在庫は増加したが、市況も緩やかに回復、当社生産も上がってきた為徐々に在庫減少、平準化に向か物と思う。

(ラミナ価格動向)

・当社の場合桧、7月西日本豪雨があり、原木出材難が懸念される。今の所目立った影響はないが、原木手当てが難しくなってくると、ラミナが購入しにくくなり、値段も上がる可能性も考えられる。・世界的に木材需要は高まっている。従って、対日向けのオファーについても欧州サプライヤーは強気に出て来ており、3rdQTのofferは2ndよりも値上がり決着したと聞いた。一方国内市況から鑑みて完成品の値段はなかなか上げられないので、国内集成材サプライヤーは非常に厳しい運営を強いられている物と思われる。・米ヒバは急激に値上がりした米国向け米杉材の代替需要により、米杉につられて値段が上がってきたが、ここに来て米杉価格は完全に天井に達し下落し始めた。米杉が手に入るのであれば米ヒバに対する代替需要も落ち着き、現在では横ばいから若干弱含み基調で推移している。

30年7月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
生産動向	国産材	12.5	12.5	25.0
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 16.7	△ 16.7	33.3
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	12.5	12.5	12.5
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	16.7	50.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材構造用集成材の生産動向は7月、8月の横ばいから9月は増加に。WW集成管柱、米マツ集成平角は3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は7月、8月の減少から9月は増加に。

・出荷動向は国産材、WW集成管柱、米マツ集成平角とも3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は7月の横ばいから8月、9月は増加に。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
スギ集成管柱	△ 12.5	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	16.7
ヒノキ集成土台	△ 16.7	0.0	25.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
米マツ集成平角	33.3	33.3	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	—	—	—

・構造用集成材の出荷価格動向はスギ集成管柱、カラマツ集成土台角、WW集成管柱、米マツ集成平角、米ヒバ土台角とも横ばい推移。

・ヒノキ集成柱、集成土台は強含み。

・RW集成管柱は弱含み。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・当社においては「桧集成材」となる。7月から市況徐々に回復して来ており、とにかく工場の生産性を上げて増産させるべく努力している。大型工場の強みを活かして、なるべく単一アイテムを集中して生産し、生産性を上げ本格的な需要期を前に更なる増産につなげたい。・当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合する杉集成材が価格競争力があり、更に製品在庫も相当量積み上げているとのうわさもあり、管柱マーケットの動きは鈍いと思われる。多少市況が回復してもなかなか増産に繋がる要因がないのではないか。当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、7月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。輸入完成品が春先に大量入荷し、決して住宅マーケットは低調な動きではなかったが、在庫過多となった為製品の荷動きが悪かった。下期の需要期に向けて徐々に住宅着工増えれば、少しづつ需給のバランスもとれ、増産も視野に入ってくるのではないかとと思われる。・当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたMKT故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。・ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップという事で顧客の米ヒバ離れは急速に進行。春先は大きく販売数量を落とした。しかしそれでも米ヒバに拘りを持って購入してくれる顧客からの発注が7月頃から少しづつ戻りつつあり、それに応じて生産も8月は少し増産する計画。9月以降は8月の様子を見る。・当社においては桧という事になる。7月若干需要回復して来ており販売は好調に推移。特に米材全面高の影響からか、米材を素材とした防腐処理土台の代替としてレゾルシノール集成材の引き合いが増えつつある。本格的な需要期である9月10月に向けて、引き合いは少しづつ増える見込み。・当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合する杉集成材が価格競争力があり、更に製品在庫も相当量積み上げているとのうわさもあり、管柱マーケットの動きは鈍いと思われる。多少市況が回復してもなかなか出荷増に繋がる要因がないのではないか。・当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、7月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。輸入完成品が春先に大量入荷し、決して住宅マーケットは低調な動きではなかったが、在庫過多となった為製品の荷動きが悪かった。下期の需要期に向けて徐々に住宅着工増えれば、少しづつ需給のバランスもとれ、出荷増も視野に入ってくるのではないかとと思われる。・当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたMKT故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る可能性も。ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップという事で顧客の米ヒバ離れは急速に進行。春先は大きく販売数量を落とした。しかしそれでも米ヒバに拘りを持って購入してくれる顧客からの発注が7月頃から少しづつ戻りつつあり、販売も多少増える見込み。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・当社生産品目ではないが、杉集成管柱は大手メーカーが安定量産体制を整えた事から、在庫潤沢に抱えているとのうわさもあり、一部価格の弱含みも聞く状態。弱含み傾向で当面横ばい推移と予想する。・原料価格は原木などジリジリっと値上がりした事もあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。・原料価格は原木などジリジリっと値上がりした事もあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。・当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、年明け以降荷動きは急激に低下、4月以降徐々に盛り返してきている物の、どちらかと言えばまだ低調気味。価格は1月に一度値下がりしてから横ばい推移が続く。・当社では取扱いないが、一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向で来た物の、前述の杉集成材が国内MKTである程度のシェアを持つに至り、杉集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は1,900円/本位での横ばい推移との事。荷動き悪化の為、価格は上げるチャンスもなく、一方原料コストはジリジリと上昇する為国内メーカーは非常に苦しいポジションではないか。・ラミナコスト上昇に伴い製品販価63,000円/m3程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。ここに来て国内メーカーが値下げ販売しているとの話も聞く。原料のラミナコストはいっぼいう的に上昇している為、国内サプライヤーは非常に苦しいポジションを強いられている物と推察する。・当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたMKT故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。・この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。